

市原市立五井公民館



公民館外観



主催事業の様子

公民館の沿革・年表

- 昭和53年 市原市立五井公民館開設
建物延面積(体育室、図書室含む) 3433.2㎡
構造 鉄筋コンクリート2階建て
- 平成6年「千葉県公民館連絡協議会主催館報コンクール奨励賞」を受賞
- 平成21年 五井公民館運営委員会設置
- 平成23年 五井公民館に指定管理制度が導入される
- 平成25年 創年ふれあい塾の開講(高齢者の学び支援)
- 平成25年 五井ふれあいサロン開講
(地域住民の学習の成果と活用)
- 平成29年 おもちゃ病院開設
(地域人材の活用と世代間交流)

左図・写真の説明等など(PRポイントなども可)

公民館の外観と主催事業の様子である。主催事業では、受講生が座学や写真の様に実際に体を動かして体験するものなど、テーマに沿って参加している。「創年ふれあい塾」や「五井楽学塾」などの人気講座では、90人の募集人数を大きく上回る申込があるため、受講生は毎回楽しみにしているようである。

1. 都道府県名	千葉県	3. 公民館対象人口	86838人	5. 来館者のインターネット接続環境	有線LAN
2. 市区町村名	市原市	4. 建物設置年月日	昭和53年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	1台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (市原市立五井公民館運営委員会) <input type="checkbox"/> その他 ()				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1800人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 13428人 (図書貸出)	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 31001人 <input type="checkbox"/> 講演会、展示会等	合計 46,229人		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 7人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人)	<input type="checkbox"/> 兼任 0人 (職員のうち社会教育士の数 0人)	<input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 7人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 14人	
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学	
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 自由記述 ()	<input type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> 図書室・体育室・陶芸小屋		
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 博物館	<input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他	<small>市原市立五井認定こども園、若葉小学校、五井小学校、若葉中学校、千葉県立京葉高等学校、東洋大学、三育学院大学、WDB株式会社エウレカ社、KDDI、千葉土建市原支部、JICA、人権擁護委員会、市原薬劑師会、五井地区社会福祉協議会、更生保護司会、スポーツ推進員、包括支援センター五井、ボーイスカウト、白金整形外科病院、子育て家庭支援員協議会、市原市商工会議所、市原市ろうあ協会、生涯学習センター、市原市危機管理課、市原市障がい者支援課、市原市中央図書館、市原青少年会館</small>

市原市立五井公民館

OPEN 9:00~21:00

H P

TEL 0436-22-2121

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

市原市では他自治体と同様、少子高齢化が進んでいるが、本公民館が位置する五井地区（市の中心市街地）においても高齢化率は右肩上がりであり上昇している。（平成23年3月1日現在 五井地区人口 85,024人 高齢化率 17.4%⇒令和3年3月1日現在 五井地区人口 86,838人 高齢化率 25.0%）
 高齢化が進むとともに公民館に対する地域住民ニーズも変化してきている。具体的には、高齢者向けの講座のニーズの増加、世代間交流に関する事業に対するニーズの増加などがあり、これら住民ニーズに対応した講座や事業を展開する必要性を感じていた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

上記の課題の対応策として、高齢者や子育て中の親などを対象とした多数の講座を開設した結果、受講生が増加していった。また、駐車場の拡張や体育室の卓球台等の備品の整備を進めたことにより、会議室、体育室、図書室の利用者数は飛躍的に増加していった。

【創年ふれあい塾（高齢者の学びの支援）】

過去に、「シニアふれあい塾」という名称で実施してきた講座を、平成25年度から新たに「創年ふれあい塾」という名称にして実施している講座である。「創年」とは、「地域のために自らの力を発揮し、創造的に生きる大人（中高年）を意味する。」と講師からご教示いただいたことが切っ掛けで、当時の講座の企画・運営担当者が、新しい自分づくり・地域づくりなどの講座づくりに挑戦する意気込みから、講座の名称を変更した。

そして、この講座に参加した受講生を中心に、新たに「五井ふれあいサロン」講座を展開することになった。

【五井ふれあいサロン（地域住民の学習の成果と活用）】

ふれあい塾などの講座終了後、講座の内容や最近の出来事などを、受講生間で楽しく会話している姿が見られた。そこで、月に1回公民館の部屋を提供し、まずは気軽に楽しみながら会話してもらおうと始めたのが「五井ふれあいサロン」である。趣味、旅行、健康、地域課題や市政等について語り合うこともあれば、各々が得意とする知識をサロン仲間に披露することもあった。

次第に仲間も増えて活動範囲も広がってきたことから、講座生の力を地域のために活かすような仕掛けを考えた。例えば、公民館文化祭でカフェを開いたり、公民館の高齢者講座で発表を行ったり、地域の人のために講座を企画・実施したりもした。

また、取組の方向を確認するため、酒々井町で同様な活動をしている人たちと交流会を行うなど、一步一步活動の場を広げていった。

【おもちゃ病院（地域人材の活用と世代間交流）】

「おもちゃ病院市原」の協力で、月1回、地域住民が持ち寄ったおもちゃを、ボランティアが修理する活動であり、高齢のボランティアと利用者である親子の交流の場となっている。また、利用者に対して児童図書の紹介も行い、施設の利用促進にも繋げている。



研修先での集合写真



酒々井町の方との交流

3. 取組による成果や効果

【活動による成果・効果（五井ふれあいサロン）】

- ・文化祭でカフェを開くことで、看板づくり・会計・コーヒーの提供など各々のスキルを活かした活動ができた。また、お互いの持ち味を知り、講座生同士の仲間意識が強くなった。以降毎年文化祭でカフェを開いている。
- ・サロンで披露した知識や技能を高齢者向けの講座で、発表することもできた。その姿が受講生の刺激となり、更にサロンの仲間を増やすことやボランティアへの参加にも繋がった。
- ・地域のために介護保険講座等を企画・実施し、参加者も多く集まり五井の活性化につながった。
- ・市外の人たちとの交流を行うことで、改めて自分たちの街の課題に気付くことができた。

【これまでの取組全体による成果・効果】

- ・主催講座数 平成22年度35講座120回 ⇒ 23年度41講座125回：最多は28年度48講座142回
- ・主催延受講者数 平成22年度 4,543人 ⇒ 23年度 5,081人：最多は29年度 5,871人
- ・施設延利用者数 平成22年度 89,224人 ⇒ 23年度 92,632人：最多は29年度 100,418人（主催延受講者数含む）



文化祭でのコーヒーショップの様子

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・市では、社会教育者、学校教育関係者、学識経験者、家庭教育関係者等15名で構成する公民館運営審議会を年間3回開催。主に、主催事業に関する諮問・答申を行い、講座の企画・運営に反映している。
- ・公民館では、学識経験者、利用者代表、地区町会長、社会福祉協議会等各種団体19名で構成する公民館運営委員会を原則年間6回開催。会議では、前年度の事業報告や今年度の事業計画について協議し、様々なアドバイスや意見をいただき取り組みの改善に役立てている。
- ・館長会議のもと、総務部会、指導員部会を各々年間6回開催し、他の公民館（全9館）と情報交換などを行い事業計画や運営に役立てている。
- ・講座後に受講生からアンケートや直接意見を伺いながら、実施報告書を作成し、反省・改善点の確認を行っている。
- ・学校との協働活動に関する内容については、地域内の五井中学校区コミュニティーネットワーク委員会で行っている。また、社会福祉活動に関する内容については、五井地区社会福祉協議会で行っている。（館長が委員として参加）

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

職員は『目配り、気配り、思いやり』をモットーにしている。例えば、高齢者の方が多く来館されるが、困りごとはないか積極的に声掛けをしている。そのため、公民館の業務外の事も聞かれることもあるが、地域住民の一番近い窓口として力になれるように努めている。また、各講座の終了後にアンケート調査を実施することに加え、直接受講生に意見を伺うことで、的確にニーズを捉え、次の企画・運営に結び付けている。



6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

これまで以上に、地域住民に寄り添える存在として親しみを持ってもらえるように努力していきたい。コロナ禍などを経て、今後は更に、SNSなどを活用した情報発信が必要になる。その一方で、電話や窓口での対応も必要であるので、あらゆるニーズに対応できるようにしていきたい。また、地域連携をより深めるために、近隣の学校などとのコミュニケーションを深め、若い世代にも公民館に親しんでもらえるようにしていきたい。

